

外傷後全耳介欠損に対し再建を行った1例当院における小耳症の相談症例2例東海大学の小耳症手術の変遷耳介再建後長期経過症例耳介低位と前方折れ曲がりを伴った小耳症の1例犬咬傷による耳垂欠損再建の1例外耳道が前方低位に存在する小耳症の再建手術扁平な再建耳介の修正手術左絞扼耳輪、右小耳症の再建方法についての相談小耳症に対する肋軟骨移植術後に一過性顔面神経麻痺を来した1例2nd Congress ISAR, Beijing参加報告複数回鼓室形成術施行された小耳症の1例前年提示症例の経過報告と耳介挙上術再植皮時におけるICG蛍光造影の使用の経験キスパンダーを挿入された小耳症に対して肋軟骨移植を行った1例耳介低位と前方折れ曲がりを伴った小耳症—第2報—外耳道瘻術後の耳珠欠損に対する再建症例の相談耳介にかかる巨大色素性母斑の治療方針症例に対する肋軟骨移植後、皮下茎を温存したにも関わらず耳甲介部に著明なうっ血を生じた2例小耳症に対術後、長期経過を経て移植軟骨への感染が生じた一例Polyotia (Mirror ear)を疑う複雑な副耳様構造物した手術を振り返る小耳症肋軟骨移植後フレーム露出に対する陰圧閉鎖療法(NPWT)の経験小耳症再建骨フレームの露出感染例に対する再移植の経験耳介2/3欠損に対するプロリンメッシュを用いた耳介再頭頂筋膜弁を用いて一期的に再建した外傷性耳介欠損の一例耳甲介軟骨移植を選択した耳介低位を伴った症の1例耳介前面の皮膚欠損に対する耳後部皮下茎皮弁の安全な作成法小耳症に合併した耳瘻孔症例にその家族背景を鑑みた小耳症手術、手術適応年齢を考察する信州大学における小耳症の術式と今後の展望介形成術の変遷耳介を含む先天性巨大色素性母斑の治療経験—札幌医大形成外科見学前とその後—80歳メルケル細胞癌の治療経験Low hair lineと外耳道低位を伴う左無耳症の1例耳垂欠損を伴う耳甲介型小手術術式について耳介挙上術後に全層植皮壊死をきたした1例アトピー性皮膚炎の既往のある小耳症患者術後生じた多発水疱著明な軟骨吸収を来した片側小耳症患者に対する再手術の相談当科での耳介形成術にの検討再建耳介に小潰瘍が繰り返し発生した小耳症の1例著明な肋軟骨石灰化を認めた成人小耳症の耳介耳珠腫による術後感染を認めた耳甲介型小耳症の1例耳介後部に膿瘍を形成した耳輪脚基部先天性耳瘻孔欠損を伴う耳甲介型小耳症に対する肋軟骨移植後の経過報告および修正手術についての相談耳介後部に膿瘍を形成した耳輪脚基部先天性耳瘻孔の2例耳垂欠損を伴う耳甲介型小耳症に対する肋軟骨移植後の経過報告および修正手術についての相談新生児期に切除を行い10年後に耳介形成術を行った乳児血管腫の1例新生児期の耳介部褥瘡による耳介変形に対して再建術を行った1例札幌医科大学見学を経て、最近の当院の小耳症手術選発性に舟状窩皮膚の浮き上がりを認めた耳甲介型小耳症の1例初回手術サルベージにmastoid fasciaを部分的に使用した症例における耳介挙上時の術式選択についての相談肋軟骨3Dモデルでシミュレーションした症例の検討ICG蛍光造影を用いたMastoid Fascial Flapの血管・血流評価耳介位置異常を伴う小耳症2症例左小耳症、hemifacial microsomia、下顎緑枝麻痺を伴う症例の耳介形成について当科における絞扼耳手術について小耳症手術モデルの作製当科における小耳症治療—札幌医大での学びを経て—カリフラワー耳介に対する耳介形成術についてMirror earの1例Mirror ear様の副耳を伴う耳介低位、耳甲介残存型小耳症に対し耳介形成を行った1例Polyotiaとの関連が疑われた小耳症の治療経験肋軟骨フレーム移植後、繰り返した皮下膿瘍に対しての耳介挙上術の相談小児の耳介Epidermal cystの検討当院における小耳症治療の現状耳甲介の脂腺癌に対して、Masson法による後耳介皮弁で再建を行った1例耳介挙上術後、初回tie over交換時期の植皮生着へ影響についてシリコンフレームが露出した小耳症の1例最近の当院での小耳症手術両側hemifacial microsomiaに伴う片側小耳症に関する症例相談switch back術後のTanzer分類Ⅲ群絞扼耳に対して、今後の方針相談若年両側耳垂ピアスケロイドの治療経験—再発も視野に入れた当院での治療アルゴリズム初めでの耳介形成—埋没耳介を利用した耳垂形成—ハイドロコロイドドレーシング材を用いて埋没耳の保存療法後に再発し再度保存療法施行中の1例当院における小耳症治療の現状2024遊離皮弁を用いた側頭部再建術後の耳介下垂に対し有茎骨膜弁を用いて耳介の吊り上げ術を行った2例神経線維腫症Ⅰ型の耳介変形耳介部動脈奇形切除後の耳介再建について事前採取した型から作製した3次元テンプレートを使用して再建を行った耳介有棘細胞癌の一例耳介位置異常を伴う小耳症2症例の経過報告

第8回 日本耳介再建学会

2025.11.7 fri ▶ 8 sat

会場 札幌医科大学医学部

会長 札幌医科大学医学部
形成外科学講座 教授 **四ッ柳 高敏**



プログラム・抄録集

第8回 日本耳介再建学会 開催報告

目 次

- 1、 学会日程表
 - 2、 症例検討会プログラム
 - 3、 参加者名簿
 - 4、 Photo コーナー（学会の様子）
 - 5、 参加者の感想
 - 6、 主催者から
-

1、学会日程表

第1日目 11月7日（金曜日）

13:00～17:00	ライブサージャリー 「小耳症（耳甲介型）肋軟骨移植術」 場所:記念ホール2階 大ホール ⇔ 附属病院手術室 会場モデレーター :筑波大学 形成外科 佐々木 薫 岡山大学 形成再建外科 妹尾 貴矢 執刀医:四ッ柳 高敏
17:00～17:15	ショートレクチャー 「肋軟骨採取のコツ」 場所:記念ホール2階 大ホール 演者:札幌医科大学形成外科 北田 文華
17:15～17:45	意見交換会 場所:記念ホール2階 大ホール 司会:札幌医科大学形成外科 四ッ柳 高敏
18:30～	総合懇親会

第2日目 11月8日（土曜日）

9:00～11:40	症例検討会 場所:記念ホール2階 大ホール
11:50～13:00	ランチョンセミナー 「耳垂残存型小耳症に対する肋軟骨移植動画の解説」 場所:記念ホール2階 大ホール 演者:札幌医科大学形成外科 四ッ柳 高敏
13:30～15:30	ハンズオンセミナー（※希望者のみ） 「人参を用いた小耳症肋軟骨フレームカービング」 場所:記念ホール1階 会議室A

2、症例検討会プログラム

開会の挨拶

札幌医科大学形成外科 教授 四ッ柳 高敏

演題第1部

座長 玉田 一敬（東京都立小児総合医療センター 形成外科）

頬骨弓の病的突出を伴う小耳症に対する耳介形成の治療戦略

○相神 なほ, 四ッ柳 高敏, 山本 晃成, 谷向 慎矢, 上田 直弘, 宮林 亜沙子, 加藤 慎二, 山下 建（札幌医科大学形成外科）

耳介変形症例に対する新患枠を新設してみた

○石垣 達也（千葉県こども病院 形成外科）

耳介挙上時の植皮生着不全についての検討

○吉田 聖（九州大学形成外科）

演題第2部

座長 鳥谷部 莊八（仙台医療センター 形成外科手外科）

稀な Question mark ear の1例

○佐々木 薫, 江藤 綾乃, 菅井 かれん, 関堂 充（筑波大学 医学医療系 形成外科）

小耳症境界域における耳介形成術、肋軟骨移植はどこまで？ 2例の経験

○妹尾 貴矢, 高成 啓介（岡山大学 形成再建外科）

第1第2鰓弓症候群に伴う小耳症に対する3段階耳介再建の経験

○玉田 一敬（地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター 形成外科）

休憩（約10分）

演題第3部

座長 石垣 達也（千葉県こども病院 形成外科）

副耳の切開線についての一提案 -切除軟骨を何かに活用する目的で-

○蔡 顯真¹, 谷畑 充梓¹, 元村 尚嗣²（南大阪病院 形成外科¹, 大阪市立大学大学院医学研究科 形成外科²）

Tanzer 分類 type IIb の絞扼耳に対して 3 次元画像による術前術後の比較を試みた 1 例

○鈴木 琢也^{1,2}, 朝村 真一² (医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院 形成外科¹, 和歌山県立医科大学 形成外科²)

小耳症耳介再建後の感染に対する対応について

○小柳 俊彰 (福岡大学形成外科)

小耳症に対する肋軟骨移植術後感染例の臨床経過についての検討

○高田 明日香^{1,2}, 四ッ柳 高敏¹, 内田 槇治¹, 船橋 真利美¹, 北 愛里紗¹, 北田 文華¹, 三浦 孝行¹ (札幌医科大学形成外科¹, 日本医科大学付属病院形成外科・再建外科・美容外科²)

写真撮影(約5分)

3、参加者名簿

全国よりお越しいただいた先生方 32 名
札幌医科大学事務局(医師、事務) 15 名

氏名 *50 音順 敬称略	所属
安里 令子	琉球大学病院
石垣 達也	千葉県こども病院
江藤 綾乃	水戸協同病院
榎本 慧	埼玉メディカルセンター
大杉 育子	川崎医科大学
押領司 親史	九州大学
笠井 昭吾	済生会宇都宮病院
加藤 愛子	大分県立病院
金山 千恵	東京都立小児総合医療センター
菊地 陽	東京都立小児総合医療センター
楠原 廣久	近畿大学奈良病院
久保村 憲	日本医科大学武蔵小杉病院
小柳 俊彰	福岡大学
蔡 顯真	南大阪病院
櫻庭 実	岩手医科大学
佐々木 薫	筑波大学
佐々木 淑恵	群馬県立小児医療センター
鈴木 琢也	岸和田徳洲会病院
妹尾 貴矢	岡山大学
徐 東經	東京都立小児総合医療センター
高木 信介	昭和医科大学形成外科
玉田 一敬	東京都立小児総合医療センター
戸澤 麻美	愛媛大学
鳥谷部 荘八	仙台医療センター
松谷 瞳	杏林大学
松田 來子	岡山大学
松本 俊太	函館五稜郭病院
三橋 伸行	岩手医科大学
宮崎 大志	がん研有明病院
森田 愛	福岡市立こども病院
山中 浩気	京都大学
吉田 聖	九州大学病院

四ッ柳 高敏	札幌医科大学(事務局)
山下 建	札幌医科大学(事務局)
三浦 孝行	札幌医科大学(事務局)
加藤 慎二	札幌医科大学(事務局)
北田 文華	札幌医科大学(事務局)
宮林 亜沙子	札幌医科大学(事務局)
上田 直弘	札幌医科大学(事務局)
相神 なほ	札幌医科大学(事務局)
高田 明日香	札幌医科大学(事務局)
船橋 真利美	札幌医科大学(事務局)
谷向 慎矢	札幌医科大学(事務局)
内田 慎治	札幌医科大学(事務局)
山本 晃成	札幌医科大学(事務局)
事務 2 名	札幌医科大学(事務局)



2 日目 症例検討会にて集合写真

4、Photo コーナー（学会の様子）

■1日目：ライブサージャリー「小耳症（耳甲介型）肋軟骨移植術」

手術室と会場を「ライブカメラの映像」と「音声」でつないだライブサージャリー。会場内の大画面スクリーンと6台のモニターから映像が配信され、映像を見ながら執刀医とのディスカッションが行えます。

今回は耳甲介型の肋軟骨移植術を実施しました。

耳介の手術に先立ち、肋軟骨採取の様子から配信し、採取時のポイントなどについて札幌医科大学 形成外科 高田明日香医師が詳細に解説しました。

会場モデレーターを担当していただいた佐々木薫先生、妹尾貴矢先生のお二人をはじめ、ご参加の先生方から活発な質疑応答がなされました。

「硬膜外麻酔は何日目で抜去しているか」「肋軟骨採取時の器械は何か」「軟骨膜を側面から剥離するコツは？」など具体的な手技の質問から、耳介作成位置のデザイン法、耳介軟骨剥離法、耳甲介型ならではのコツ、肋軟骨フレームのパーツ位置の決定法などの詳細な作成法や真珠腫を併発する場合の対応の仕方に到るまで、たくさんのご質問をいただきました。

モデレーターの佐々木先生、妹尾先生ありがとうございました！



ライブサージャリー中の様子、皆様熱心にご覧になっています

■1日目：ショートレクチャー 「肋軟骨採取のコツ」

ライブサージアリー終了後、「小耳症における肋軟骨採取」の方法やコツについて、札幌医科大学形成外科 北田文華医師から講演がありました。今年で4回目の開催になります。

肋軟骨の解剖的特徴や小耳症患者と肋軟骨形態異常の関係性について、また肋軟骨採取部の鎮痛方法や採取の手順を実際の動画を用いて詳しく説明しました。

ライブサージアリーでも肋軟骨採取に関して解説をしていたため、動画付きの詳細なレクチャーは術式・手順の再確認にもなり、大変好評でした。



肋軟骨採取について説明をしている北田文華医師

■1日目：意見交換会

本学会は耳介の治療に本気で取り組んでいる人、取り組もうとしている人による相談会・意見交換、勉強会の場であり、日本の耳介再建のレベルを底上げすることを目的としています。毎年恒例ではありますが、まずは初めてご参加いただいた方々に向け、このような本学会の趣旨やシステムについて会長の四ッ柳より説明をしました。

次回の学会の内容や構成への希望を後日アンケートにてお伺いし、いただいたご意見・ご希望をもとに第9回目をより有意義な学会にすべく企画していくことが話されました。

また、本学会から発行する予定の耳介の教科書に関して、これまで参加されてきた先生方に、すでに原稿のご依頼をしており、今後の発刊に向けてぜひご協力をお願いしたいと、話がありました。

なお、第9回目の開催日程に関しては、毎年雪の影響が懸念されていることから、時期を1か月程度早め、2026年10月16日(金)～17日(土)を第1希望、10月2日(金)～3日(土)を第2希望とし、参加者の皆さんのご意見をお聞きしながら最終的に決定することにしました。第9回目も皆さまのご参加をお待ちしております。



会長 四ッ柳による説明

■ 学会運営ウラ話 ～ ライブサージャリーのしくみ

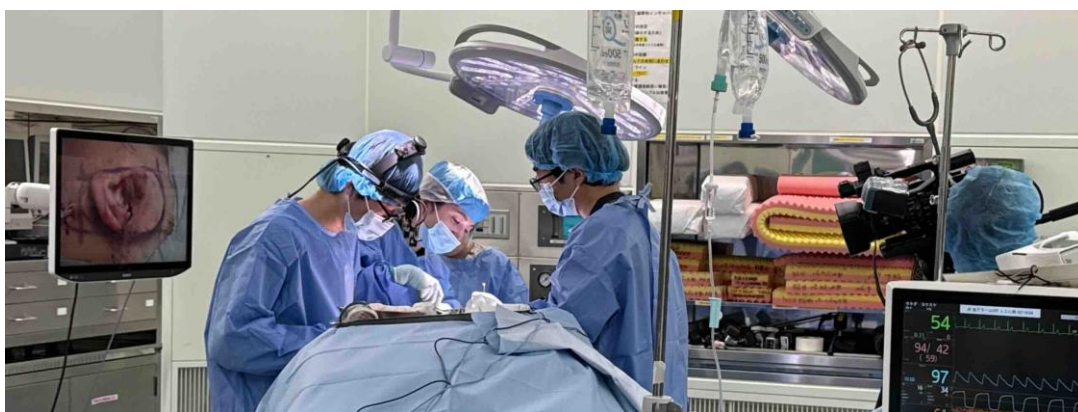
毎年好評をいただいているライブサージャリーですが、いったいどのようにして会場にお送りしているのか、ウラ側を簡単にご説明します。

札幌医科大学では札幌医科大学学術情報ネットワークシステム(SAINS)というクローズドネットワークがあり、学会会場(札幌医科大学記念ホール)もネットワークシステムに含まれています。手術室で撮影した画像を送信機を介してネットワーク経由で受信機に送り、学会会場へお届けしています。数年前から札幌医科大学映像室のスタッフの方に、高性能カメラで撮影していただいております。クリアな画像をお送りできているかと思います。

音声がなかなか安定しないのが目下の問題であり、毎年いろいろな工夫を追加してクオリティの向上を目指しています。



これが送受信機の本体です



会場では見られない、手術室での撮影の様子です

■2日目：症例検討会

耳の治療に携わる先生方が、とことんまでディスカッションする症例検討会。日本耳介再建学会の目玉の一つです。

通常の学会のような成功症例報告ではなく、相談症例の発表が多いのが特徴です。また、本年は自施設での小耳症の症例数を底上げする工夫や感染症例に対する対応、経過など、小耳症の治療に関して各先生方が日々苦勞されているポイントについてのディスカッションもなされました。

本学会への参加や症例相談の発表により、年々先生方の治療結果が格段に上がっていらっしやることがわかり、本学会としても大変嬉しく思います。

今回もたくさんの演題をご発表いただきまして、ありがとうございました。

座長の玉田一敬先生、鳥谷部荘八先生、石垣達也先生ありがとうございました。



症例検討会でのディスカッション

■2日目：ランチョンセミナー

「耳垂残存型小耳症に対する肋軟骨移植動画の解説」

今回、ライブサージアリーでは「耳甲介型」小耳症に対する肋軟骨移植術を行いましたので、ランチョンセミナーでは四ッ柳医師が Journal of Craniofacial Surgery(2025 年)に発表した論文の「耳垂残存型」小耳症に対する肋軟骨移植術の動画を解説する形で講演を実施しました。耳垂残存型のデザインから皮膚切開、剥離の手技、また肋軟骨を組み立てる際の注意点などについて説明しました。先生方は解説付きの動画に見入られていて、たくさんの質問をいただきました。



手術動画を詳細に解説する四ッ柳医師

終盤10分間（共催）メドエルジャパン株式会社

「人工中耳・骨導インプラント・骨導補聴器の製品説明」

一昨年よりご好評をいただいている補聴器の製品説明を、ランチョンセミナーの終盤10分間行いました。本年度はメドエルジャパン株式会社様に共催いただき、企業展示を実施いたしました。オーストリア発祥のメドエル社の製品である人工中耳、骨導インプラント、骨導補聴器ADHEARの仕組みや製品概要、取り扱い施設基準などについてお話いただきました。その後、企業展示ブースにて実際に補聴器を体験していただきました。

■2日目： ハンズオンセミナー

「 人参を用いた小耳症肋骨フレイムカービング 」

例年開催しております、本会の目玉の一つである肋骨フレイムカービング。2日間乾燥させ、肋骨により近い感触となった人参と彫刻刀、生検パンチを使用し、肋骨フレイムを作成します。肋骨フレイムができ上がったあとは、陰圧をかけて、よりリアルに凹凸の出方を感じていただきます。回を追うごとに先生方のフレイム作成のスピードと形態のレベルがアップしています。



四ッ柳医師による最初のレクチャー





先生方も真剣に聞き入り、フレーム作成しています



ハイレベルな先生方の作品です

5、参加者の感想

1. 東京都立小児総合医療センター 形成外科 玉田一敬先生より

早いもので、今年でもう8度目の日本耳介再建学会が開催されました。私はまだ耳介再建研究会という名称であった第1回より毎年参加させていただいておりますが、今回、四ッ柳教授よりご指名いただきましたので、初めて体験記を書かせていただきます。

今回は寒くなって雪が降り始める前に、ということで11月7・8日での開催でしたが、地下鉄西18丁目の地上に出ると、みぞれが吹き荒れており、ひっくり返りそうになる傘を押さえながら会場へと向かいました。実は本学会に合わせて雪が降り出すことは「あるある」なので、逆に今年も戻ってこられたな、という気持ちになりました。そして会場でスタッフの皆さんにご挨拶し、最初のプログラムにして最大の目玉、ライブサージャリーを見せていただきました。

今年は肋軟骨採取から少し時間差でフレームワークの形成という構成でしたので、より自施設での手術の組み立てに近い状況を見学することができました。札幌医大の形成外科の先生は若手の先生方も非常に手際がよく、採取の順番や肋軟骨を傷つけないように採取するポイントを的確に解説しながら非常にスムーズに採取されていて感心いたしました。次に、四ッ柳教授による皮弁作成とフレームワークの作成が始まりました。いつもながら四ッ柳教授の手術は全くと言っていいほど無駄がなく、そのため手術の展開が非常に早く進んでいきました。おそらく頭の中に色々な意思決定のパターンがインプットされていて、即断即決されているのだと思います。豊富な経験に裏打ちされた的確な判断は一朝一夕になせるものではないとは思いますが、形成外科医として目指すべき姿だと感じました。そのような磨き抜かれた手術手技を繰り出しながらも、四ッ柳教授は一つ一つの手技を、その根拠とともに詳しく解説して下さります。常に参加者への配慮を絶やさないところも、流石というほかなかったです。手術場でのカメラワークや視聴会場での運営など含め、札幌医大形成外科の先生方のホスピタリティは素晴らしく、今年も全く不自由なく見学させていただきました。ちなみにわたしは毎回、全ての場面を解説付きで絵に書いて、持ち帰って保管しています。自分の執刀の際に見返したりすることはもちろん主な目的の一つではあるのですが、以前記録していたものと比較することで、四ッ柳教授の術式の微妙な変化が確認でき、さらに自分の小耳症手術への解像度が徐々に上がっていることが実感できて励みになります。手術記録を見れば、その外科医の、術式への理解がわかるものですが、自分も徐々に執刀症例数が増加してきており、同じように見学していても、以前よりも注目すべきポイントを明確にして確認することができるようになってきたと感じました。

ライブサージャリーの後は、北田先生による肋軟骨採取のミニレクチャーを聴講しました。こちらの内容は例年通りだったのですが、今回はライブサージャリーでも肋軟骨採取を見学した後でしたので、より理解が深まりました。その後は意見交換会を行なって1日目のプログラム終了となりました。医局のスタッフの皆様のご尽力で、懇親会も企画され、私も他施設からお越しの先生方と、小耳症手術のことのみならず、日常の臨床のマネジメントや若手教育の話など含め、多岐にわたって

お話をさせていただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。二次会もありましたが、2 日目に朝一番で座長の任務があったため、私は北海道から研修中の同僚と、お勧めのチャンポンを食べて帰って休ませていただきました。2 日目の朝に目を覚ますと、窓の外は雪景色でした。普通のスニーカーで来てしまっていたのでマズイなと思いましたが、チャンポンのカロリーを消費しないといけないので、早めにチェックアウトして徒歩で 30 分ほどかけて会場に到着しました。静かな札幌の朝を、雪を踏みしめながら歩くのは新鮮な感覚でした。

さて、2 日目午前には症例検討会が行われました。私は第 1 部の座長を務めさせていただいたほか、自分自身が工夫した術式についても 1 例報告を行わせていただき、四ッ柳教授はじめ、フロアの皆様から大変ポジティブなご意見を頂戴できました。やはり皆さん小耳症を学ぶためだけに北海道に集まって来られているだけあって、非常に内容の濃いディスカッションが行われており、普段の、より規模の大きい学会と比較しても「熱い」学会だと思いました。

症例検討会の後は、四ッ柳教授の手術解説ビデオを視聴しつつのランチョンセミナーが行われました。1 日目のライブサージャリーでは、耳甲介型小耳症の手術を見せていただいたのですが、ランチョンセミナーでのビデオは耳垂型小耳症の手術を編集したものであり、珠間切痕あたりのフレームワーク操作について、ノウハウを補完することができました。より実りあるプログラムにしようという四ッ柳教授の熱意が伝わってきました。また、その後には業者さんによる人工内耳や骨導インプラントといったデバイスの解説がありました。私も正確に理解していなかった部分もあり、このようなプログラムの内容からも、主に整容的改善を目指す形成外科医であっても、聞こえに関する最低限の知識は備えておくべきだという、四ッ柳教授のプロフェッショナルとしての矜持を感じました。

午後にはニンジンを用いたカービングのワークショップがあったのですが、私は翌日も遠方で業務がありましたので、中座して帰京させていただきました。ただ、私も以前ニンジン教室には参加させていただいたことがあり、形を見る目を養う上で確実に有用なワークショップであることはここに記しておきたいと思います。1 日半程度と、短い滞在ではありましたが、今回も非常にためになる学会でした。今後の自分自身の臨床に、確実に反映されることと思います。これも四ッ柳教授をはじめとする札幌医大形成外科教室の皆様のご尽力と誠意、また、同じ志を持つ多数の施設の先生方の熱意あってのものだと思います。また来年、さらにレベルアップして北海道に戻って来られるように心に誓いつつ、私の体験記を終えさせていただきます。皆様、どうもありがとうございました。



症例検討会で座長をされている玉田先生

2. 水戸協同病院 形成外科 江藤 綾乃先生より

今回で4回目の参加となりました。小耳症に興味はあれども、ほとんど触れる機会もなく過ぎてきてしまいましたが、本学会が開催されていることを教えていただき「四ッ柳先生の手術を見てみたい!!!!!!」と第5回から参加しております。見たい・知りたい・体験したいことが凝縮したこの学会を毎年楽しみにしております。

【1日目】

📍 ライブサージャリー

今年は耳甲介型の症例でした。たくさんのモニターがあり、どこに座っても見やすい環境です。例年は軟骨採取と耳が同時進行でしたが、アンケートのリクエストを酌んで今年は肋軟骨採取を先行してくださり、じっくり見ることができました。無駄のない手技でその都度コツや注意点を解説していただき、非常にわかりやすく勉強になりました。

肋軟骨採取がすすんでからいよいよ四ッ柳先生の手術が始まりました。毎回デザインから詳細に解説してくださいます。疑問点などはその都度質問でき、モニターで術野が見えているかも確認してくださるので、「見逃した」「よくわからなかった」ということはありません。耳甲介型で迷う遺残耳介軟骨をどの程度利用しどこまでフレームを作るか、また遺残軟骨とフレームをどのように合わせて連結するか、なども即座に判断し進んでいく手術に圧倒されました。あっという間に出来上がっていくため、メモを取るために手元を見ている時間は最小限です。再建耳介はとても綺麗で今年も衝撃と感動でした。

📍 ショートレクチャー

北田先生の「肋軟骨採取のコツ」はいつもとてもわかりやすいのですが、今年はライブサージャリーで肋軟骨採取のみの時間もとってくださったのでより理解が深まりました。毎回北田先生の素敵な声に聞き入ってしまいがちで、聞き惚れて内容を逃さないように気をつけています。

📍 総合懇親会

今年も多くの先生方とお話したり新たに知り合うことができとても貴重な時間でした。

【2日目】朝起きたら雪化粧という札幌の洗礼を受ける※

📍 症例検討会

学会発表といえば「チャンピオン症例ばかり」、質疑応答という名の「潰しあい」というイメージですが、本学会は全く異なります。難しい症例やトラブル症例の相談などもあり、それに対し建設的な意見やアドバイスばかりで「良い治療のために、患者さんのために」という意気込みが詰まった検討会だと感じています。

📍 ランチョンセミナー

耳垂残存型小耳症に対する肋軟骨移植動画の解説でした。ライブサージャリーの他にも四ッ柳先生の手術を学べる貴重な時間でした。ぜひ次回も動画解説のランチョンセミナーをリクエストしたいです。

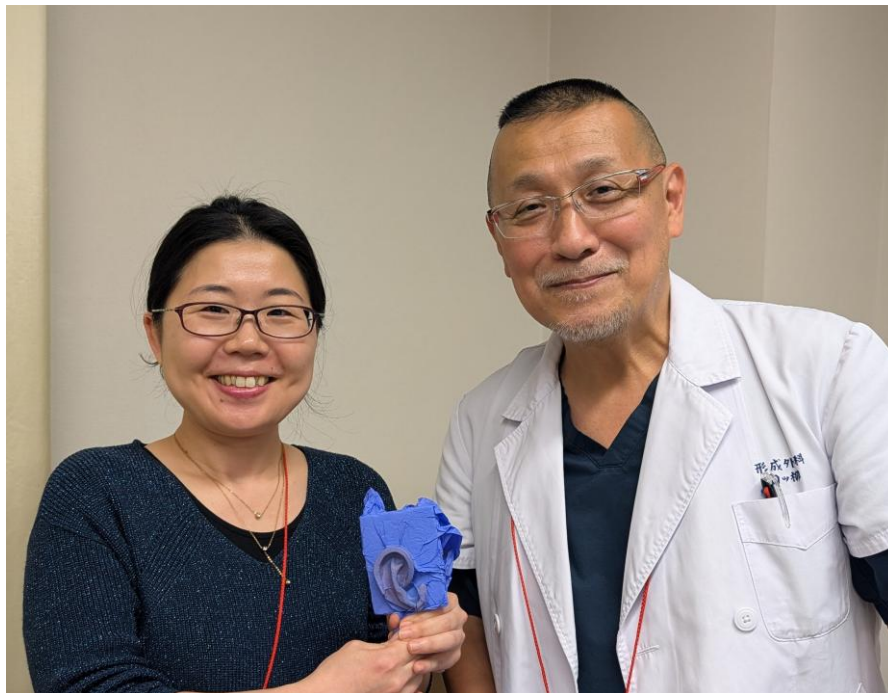
👉 ハンズオンセミナー

スライスした人参を2日間程度冷蔵庫で適度に水抜きしたものを準備いただいている非常に手間のかかったハンズオンセミナーです。

今回で3回目のセミナー参加で、やっとフレームの立体感の理解ができてきたか・・・？という状態です。迷ったところは札幌医科大学の先生方にアドバイスいただきながら作りました。四ッ柳先生にも毎回アドバイスいただいています、「ここを削るといいですよ」と追加してくださる一太刀で、カッコいいラインになるのには本当に感動します。その形に少しでも近づけるように練習したいと思います。

【さいごに】

今年も四ッ柳先生が技術と知識を惜しみなくご教授くださり大変勉強になりました。札幌医科大学形成外科学講座の先生方、学会事務局の皆様には大変お忙しい中、学会を運営いただき心より感謝申し上げます。来年も参加します!!!



ハンズオンセミナーで作成されたフレームとともに

6、主催者から

札幌医科大学 形成外科 四ッ柳高敏

ついに本会も第8回になりました。今回もつつがなく終えられほっとしております。今年も初参加の人が増え、いつも以上に賑やかな印象でした。手作りの学会なので、対応できる人数には限界はあるのですが、初回から全参加のメンバーに加え、新しい方の参加で、いい感じで大きくなってきていることは嬉しい悲鳴です。ただ、恒例の、というか、この会の時には雪が降るというジンクスがどうも定着しつつあり・・・前日までは比較的穏やかな良い気候だったのですが、当日より一気に雪景色となってしまいました。

今回のライブサージャリーは、比較的典型的な耳甲介型小耳症で、体格的に少々小さめなので、軟骨量を心配していましたが、問題ない大きさで安心しました。まあお越しになっている皆様は、私が苦勞しているところなんかも見たいとおっしゃるのですが、期待外れ・・・私にとってはラッキーな結果ということで。耳甲介型小耳症で難しいポイントが、遺残軟骨とどう組み合わせるか、と、皮膚調整、の二点ですが、これらが非常にスムーズに行え、綺麗な形に仕上がったところをお見せできたので、個人的には満足しております。前回の本会より、先に肋軟骨採取からスタートして、その様子を少し見ていただいてから耳の方を始める、というパターンでやりましたが、どちらも見れるということで好評の様でしたので、今後もその方向で考えたいと思います。そうすると、手術時間的には少々長くなってしまのですが、通常耳甲介型小耳症の手術時間は2時間かからないので、早く終わらずとも見ごたえがないですし、ちょうどいい感じでしょうか。

懇親会は本会の裏のメイン行事となっていて、非常に多くの方が二次会まで参加くださいました。なかなか普段話をする機会のない先生とも、かなり色々な話をしてことができ、皆の距離がぐっと縮まるの感じられるのが魅力です。

症例検討会は、毎年どうするべきか悩む難しい症例が出てくるので、皆で意見を出し合うのが理想なのですが、会場が広く少々緊張感がある中で、なかなか若い先生から意見が出て来ないのが寂しいところです。本当はもっと狭い部屋で地声であーだこーだと話ができることが理想なのですが、人数的にちょうど良い部屋がなく、悩ましいところです。

今年のランチョンは、これまでと趣旨を変えて、耳垂型小耳症のビデオを流し私が解説する、という形でやってみました。熱心にメモを取っている方が多く、一通り終わってから最後に質問が出てきた感じなのですが、ビデオを止めながら説明できるので、ライブサージャリーではなかなか質問できない方も、途中でどんどん質問していただければと思います。

ハンズオンは、恒例の人参教室ですが、毎年やっている方達はさすがで、あっという間に綺麗な形を作ってお帰りになっていきます。軟骨と人参は違いますが、耳の立体感や各パーツやその連結のイメージを作るには良い練習となります。初参加の方は苦勞しながらやっていましたが、皆さん最終的には綺麗な耳の形になっていました。今回は、岡山から両側耳っ子(札幌医大で手術済み)の2年生の医学生も参加してくれたのですが、縫合の仕方もまだ身についていない中、一生懸命に頑張っていて、最後はちゃんとした耳の形を作っていました。

全体として、大きなトラブルもなくスムーズに進行し、皆様にはある程度満足いただけたのではないかと思います。またアンケート結果を待って、さらに充実した会にしていきたいと思いま

す。来年は確実に雪のない10月に開催する予定ですので、1年後また皆様のご参加をお待ちしております。